



Title	教師についての私の11の考察
Author(s)	マーチン, トロー
Citation	高等教育ジャーナル, 5, 132-134
Issue Date	1999
DOI	10.14943/J.HighEdu.5.132
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/29765">http://hdl.handle.net/2115/29765</a>
Type	bulletin (article)
File Information	5_P132-134.pdf



[Instructions for use](#)

# 教師についての私の11の考察

マーチン・トロー \*

カリフォルニア大学バークレー校大学院公共政策学研究所

## Eleven Thoughts for Teachers

Martin Trow\*

Graduate School of Public Policy, University of California, Berkeley

(翻訳版)

### はじめに

私はここで自分の高等教育に関する最近の研究のことを報告するよりも、みなさんがはじめようとしている学術的専門職、教えることと学ぶこと、学術的生活について、いくつかの考えを明らかにするほうがより有益であると思います。私は教科書に書いてあることを述べるのではなく、アメリカ合衆国、イギリス、スウェーデン、その他で大学教師として働いた40年以上の経験にもとづいて話します。私は言語、文化そして年齢の溝をこえて話すことの難しさを理解していますが、よろしくお願ひします。

### 11の考察

#### 1. つぎの数十年間にすべての国の教師が直面する3つの問題

若い教師は、すべての国においてつぎの数十年にわたって3つの緊急課題に直面するでしょう。

a. 教育に関する新しいテクノロジーが約束され、またその脅威にもさらされています。これらは、これからの十年以上にわたって大学と私たちの仕事を予想もできないほど大きく変えていくでしょう。

b. 大学入学者は年々増加し、高等教育の利用者は拡大しますが、国からの学生当たり予算は減少します。このことは、クラスサイズを大きくし、教師が各学生に割く時間を減らさざるをえないことを意味します。

c. 今の学生たちは、最初の真の「ビデオ」世代です。実際、彼らは、あまり物を知らず、物を読んだりせずに大学にやってきます。このため、大学での一般教育の重要性が増します。つまり、以前は学校や家庭で得ていた基礎知識の総体を教えることがますます重要になります。

#### 2. 教師は技能と知識を伝授するが、さらに重要なことは精神と人格を形成する

私たちが教えることの主な成果は、私たちの助けによって形成される若々しい精神です。大学で、私たちは、技能と知識を伝授します。そればかりではなく、学生たちの精神と人格形成にも関与します。おそらく、新しいテクノロジーは第一の役割、すなわち、技能と知識の伝授にかなり有効でしょう。しかし、テクノロジーには第二の役割を果たす能力はあまりありません。私たちは、セミナールームや研究室での学生たちとの直接的な交流を通して、重要な教育上の役割を果たし続けることになりましょう。

\*) Correspondence : Graduate School of Public Policy, University of California, 2607 Hearst Avenue #7320, Berkeley, California 94720-7320

### 3. 大学は、年長者と若者の共同体

大学は、無知の領域を駆逐し、物事の本質や意味についてより多くを学ぶ努力をとにもする年長者と若者の共同体です。私たち教師のことを考えてみますと、年長者と若者、学ぶ者たちすべての共同体は、教師と学生の立場の違いを縮め、両者の共同事業を推進します。もちろん、あなたがた教師は、少なくとも専門分野に関しては、彼ら学生より多くを知っています。そういう場面に限って言えば、アイデアや情報は、大部分が一方通行で流れるかもしれません。しかし、学生もまた私たち教師に教えているのです。私たちは、彼らが問う質問によって、彼らにとっても、私たちにとっても、何が未知であるのかを学びます。そして、やがて、私たちが抱いてきた考えがもう役に立たないこと、あるいは、新しい証拠や討論によって吟味し直す必要があることを大学院生たちから学ぶのです。

### 4. 学生 教師間の社会的距離の短縮

教師と学生、年長者と若者の間に横たわる地位や年齢の隔たりをどうしたら埋めることができるでしょうか。どうしたら、私たち教師と学生の共同作業、無知に対する共同の戦いを推進できるでしょうか。まず始めに、教師は、講義で聞いたことや本で読んだことに関する討論を学生に奨励し、さらにそれを要求さえしてよいと考えます。また、私たち教師は、学生の見解を尊重し、それを訂正するのにせっかちにならないようにすべきです。私たちは教師として、学生たちをどうやって討論に仕向けるかを学ぶ必要があります。これもまた、教師の職業上の技術です。

### 5. 自らの研究を学部教育の教室に持ち込む

また、私たちは、自らの研究内容について学生に可能な限り早期に語るなどして、教師も同じ学ぶ者であることを気づかせてもよいでしょう。知識が教科書から自然に生まれたものではなく、苦労のすえ勝ち取られるもの、そして、多くの難点や曖昧さを含むものであることを、学部学生であっても理解しはじめましょう。こうした、知識がいかんして獲得されるか、といった感覚を盛り込んだ教科書はあまりあ

りません。しかし、様々な研究のスタートでの失敗、実験の失敗、そして証拠の解釈の過ちが、現実の研究や学問に内在することを私たち教師は知っています。なにか重要なことに関するものごとの発見という行為が、決して安易でも、きちんとしたものでもなく、複雑で曖昧で、ときには運も含むことを私たちは知っていますし、それを学生にも示さなければなりません。

### 6. 私たちの知識の限界を知ってもらうことは、学生に教師をより身近な存在とする

あなた方自身の知識の限界、あなたの専門とする分野において、問題や疑問が、まだまだ満足すべき解答を得ていないことを学生に知らせましょう。このことはまた、あなたが、学生たちと同様に学習者であることを明らかにすることでもあります。自分の無知を告白できないのは、未熟な教師だけに限られません。知識の限界をはっきりさせることは、あなたがたが学識における信用できることの証拠となります。

### 7. 理由、証拠、そして独創的構想力を力説することの重要性

すべての討論では、理由、証拠、そして独創的構想力を力説しなさい。独創的構想力は新たな知識を創造するのに必要ですが、これは理由と証拠から産まれるものではありません。あなたがた自身の仕事に、文献上での創造性、理由そして証拠を結びつけて示す必要があります。

### 8. 自分自身のアイデアと学説を支持しない根拠の重要な役割

自分自身の考え方あるいは仮説を支持しない根拠、いわゆる「反証」の役割が、大いに重要であることを、学生たちに示しなさい。反証を扱うことは、科学と学識のモラルの中心です。私たちはそのことを無視もできますし、あるいは覆い隠すこともできます。つまり、例外的なことであると説明することもできます。しかし、反証を自分たちの学究の中心にすえることもできます。説明の図式の中で反証を上手に用いて、自分たちのアイデアと学説を発展させることもできます。このことは、とくに自然や物理化学

の自己矯正機構がかならずしも存在しない文系や社会科学系の研究で重要です。

9. 私たちの反証を扱う方法に関して、教えること (teaching) と教え込むこと (indoctrination) との違い

私たちの分野において反証をどう扱うかは、教えること (teaching) と教え込むこと (indoctrination) との違いを知ることでもあります。教え込むこととは、学生に、事実を先行する独立したアイディアの体系、イデオロギーを構成する信念と空想の体系を教えることです。そんなことは政治家に任せておけばよいのです。科学者や学者の仕事というのはまったく違うことなのです。そして学生にその違いを明確にしておくことは有益なことです。何かを強固に信じることは十分ではありません。「事実は何か」ということを私たちは絶えず問いかけなければなりません。

10. もし私たちが教えることに飽きているなら、学生もまた飽きている

最後に、私たちは自分の仕事に喜びを求め見つけなければなりません。自分の仕事が退屈で飽き飽きしていると思えたら、なにか基本的にまちがっています。まず教えることが自分にとって楽しく思える方法を見つけなければなりません。私たちは、学生が楽しいと思うようにできるとはかぎりません。しかし、もし教えていることが自分にとって面白いならば、学生にとって、少なくとも彼らの多くにとって、面白いものでしょう。しかし、教えていることが自分でつまらないし、楽しくないと思うようになったら、自分は何をしているのかを考え直す時期です。そし

てたぶん全く違うやり方を見つける時期です。自分の仕事を造りなおすという自由は他の職業にはない大きな利点です。私たちは、その自由のもつ恩恵をしばしば受けるべきです。

11. 学生を鼓舞する

我々は一生をかけた研究や新知識の発見によって、それぞれの学問の専門分野、さらには社会や人類に寄与したいと願っております。しかし、実際には学生に教えるのではなく彼らを鼓舞することにより、我々の文明に大きな寄与をしているのかもしれない。そこで、みなさんに大学および大学院で学ばれたなかで最も鼓舞された先生について考えてもらうことで私の話を終えようと思います。すべての方が、これまでに少なくともひとりの先生により人生を大きく変えるような影響を受けられたことでしょうか。それでは、みなさんは学生にとってそのような影響力のある先生になれるでしょうか。

学生を鼓舞するには2つの方法が考えられます。ある先生は、あなたの人生で一番重要なときに、あなたが学生以上のものになれるという自信を与えたのでしよう。「君なら、科学者もしかしたら大学教授になれる。」ある先生は学問の探求に熱心で、あなたは学問の意義を見いだし私はこのような先生になりたいと考えたのでしよう。いずれにしても、このような先生は学生と特別な人間関係をもつか、学問との特別な関係をもっています。また、学生を鼓舞できる先生にとって教育は職業でも生計をたてるためでもなく、人生の重要なエッセンスであり、自分の人生の意義なのです。

( 翻訳 : 阿部和厚ら )